御筆

安也

二

鄙語ひしゃく

屋

三碧
所藏

歟杓子　只一謙よい歟杓子乃
謙歟杓子を文乃表文
もくらんらんと殺ふ懐く
いはれとと殺ふ懐く
山乃字歟の字よりも不羅
付くもくるしきもくるしく
ひきて糖紙をつつみ
歟杓子と付くもくるしかく寸
素乃名より歟杓子をとる蕗の
らうのもし素乃名なりしや
ゆゑさよりもも付くくるし
ゆゑ歟杓子を乃字を

やまぶきと漢字に目むれあり
まわりわさ稚花と代くりの
義をまこととをあくあめ
をとをあくこ

宿 只一脇より一屋くりひかよ
あり屋の屋くり爰
屋くりの屋くりの
ひ新武乃文章と東を
り一屋二句乃相よおくる
くり四句あくりゆよゆ
もい宿と屋くりと制あ
宿二句位くあると云ひ
紙と雛より宿二乃かう
ゆくと数より漢く今一
をくり宿より屋くり連より
と塩へと雛より面を塩くし

月義乃句の宿くりの屋くりの
宿より七句をと屋くりうりい
物を塩なくり

屋くり一 句宿くり文一新
武芸屋くりも
二句と雛くりひかよ屋宿
二十八宿乃数今一あり宿二
屋くり二をくくも二あり物
乃宿ゆくくも屋くりあく
も芸新をくあくさ寸宿やと
つ屋乃表より数より漢く宿の
宿をくをの漢くくいれをり
ゆ屋くをゆくくのもをくく
乃面より宿をを

屋乃宿 芦屋管屋あくの
数と宿と雛より町

[illegible]

柳

只一言柳一株発乃乃に
一雛よハひ[illegible]ハ柳紅或ハ
楊柳歌者柳下東 柳宮
柳又或ハ柳搗柳ら滴柳乃
[illegible]一[illegible]
乃柳[illegible]雑之稲よ
[illegible]柳乃[illegible]
[illegible]柳の法よ[illegible]
[illegible]之稲
水[illegible]村井袁[illegible]

[illegible]乃時之名[illegible]
[illegible]柳と極
[illegible]乃名よりせ
[illegible]稲より二句
[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]紙同
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あ段行くく人ゆ云初くろ事
きとしれ法よ海き道
理れ与紀欲組を産乃家通
次第あるへし道世乃初よ
稲与を柳よ屋与ると事と人柳
髮くくゆ皆種稲と言し
柳四乃門と人屋うくくと云
事揚枝書名歯くも出と事
髮と柳乃字よ付句付を
海と種稲よも云くもあく
次ひ法柳揚と句と条も
凡くわ此以乃云寸しく云
とくくを所ゆ不平移柳
よ書と結くくも言し柳与
と初秋与わ歌あ名れく
与稲と名家のうあくくと

数 種稲小二句言し只名家
乃多くを而と言し書と
同しあるを一而うくくこんくあくを
云数与ひ名寄せくきと
乃よ信余ものきとふと
世よよ行家と数くを
誤与わ雲とよハ行と付ても
くあくあくあくを所与数よ
も付へ求道理与くくうら雲
同言成色与れくかへくく
付のあるくく次あくのも
時代くくこうあるひられハ
人ゆんんよくひある結与
乃よ後あも言行よハ二句
言し連歌よ一座一句与わ

俳諧の数寄

の句のあるもの数寄数寄

乃門今一句あるべし二句

数寄あるべし風流風雅

乃矢乃もも同じ

第一　年乃矢一連おこれ

し俳諧よい矢とき矢立

矢立賀茂矢箭あるこの数乃

俳云今一形とうへくあること

山城乃とうの　と云同じ

連し連り俳諧

明と今一あまて俳諧いれ

とうへくもの俳諧

今一もあるべし俳諧

もの明も三乃四なるべ

生類よりあるもの乃

と云句あるもの乃

面と連乃し

俳乃どもあるべ耳よたく

さ結し明乃宮よ三句連し

山姫　雑し山類し山賤し書

て和名よ山ぶと続し

山姫のもし山ぶ神とつ

結び神紙よ

山賤　山数よあるべ山宮に

三句を連へ人

編し屋乃人

編よもあるべ山数よ人

加よ山乃宮よ二句人よる

三句をし鬼数山賤を俳

て山数をの俳と人り

四海をも山賤をも自見あるこのうれも山井よりあるあ
加といふ物しかりとよさあるこ俗人も水辺よりあるこ
うくせと関口せうりうのあるうれを知人をも法
義をもれを世理をも知人をも法
光いにしへ山野さいわしかりのを
紙山賤をうひおくしめくるあ
河よりあるよりあるこもあ
山新よりあるこんくるあるこ
里ふもあれを賤をいなる山紙
とをもやまひをもいなる仙人をうけくる山
類よりあるを仙人いなる山よりのこを海
ぬかくそれも山よりあるを仙人をさて
仙人をうぬやまひをあるうれ山額
よりあるを白紙よりて世をあるへ方る

細よりあるを白紙をあるこ
をうをれよりあるへ

山うつら

曉乃雲ふかき山路の雲の間より
なりの海鳥山彩うち

みまれをくのめ形しの山を
山人と人をうれんるふ山うつら
せうもいを古今集の紅あるひ
乃雲し曉の雲ふかあるを山人
の彩よりあるのうつらをまるのう
屋うふ紅ふしあ女のうつらさ
かうしとかめるうつらうしと結
ふのうつらの紅とうつら常
とうを額よりあるくうつよ
結ひさうふ山雲を今雲を
雅よりあるつ紅をくるれ人をうと
不審をうつ世を宗師

[illegible]

山と山　三句ともに山路とする
ものなり

山類　山類よりあらず山乃字
より三句地雑なるわ

山乃色　[illegible]

山と山乃名所　同名のと新
式よりあるを
付るもあるを山乃字不
ひえなくして富士清見大
ふもと美濃の
なるべし山乃字無き日
と山井よりきこえ野も
里もあるの新名山歌
よりあるべし

山乃濡　[illegible]

山乃宮　[illegible]

山乃濡ふ　[illegible]

[illegible]

又句躰も紹巴乃ころ又
百ケ條よれハ山乃端与山顔
面と躰とあれも見よふに
ぬけかし山乃端とらふハいふ
もうるさきもひらぬもる
うかば山ゆくもその山乃え
しとい事ハ出をしく
ねさわくうる事と云るわ
文字ふも山乃下小谿(かた)と云
字の様の事と書あり強と
立てあるくさえのとらわ
あの深ミ山乃端よ面ゟ
躰もし無ミよ又句ある
あれハ鄰よハ三句去也花山の
端ふ岩嶽岳と須弥の山ゟ
ろうされ大ふ冬府をれ
句ハ名ある八止より八付ても苦

ふうす字てう摘合うしる
あら汲む越を云繪へさう
山下(しも)山りしみよ又ろけ
景(けい)乃字し二句嫌く無云と
よう字ゟ撰し一物ふ嫌ミく
山きハあのとゑふハい清ミのげ
もふ嫌ミく
山の字とあらく又山やき
わとかく又あへし鄰よ
ハ山うけと二季てく山乃宗
程あくゆえてし
山乃あしき　紅葉見ましく
鄰りハ紅葉

山乃又野の白菊

紅葉も深き紅葉

山面とさくらへし鄙うゐ七句

山菜

紅句よりなべてハ種種ちら

ハ人ハ深かと

ちくらふ山なかの

ちくらふ人種し

山菜と云句小菜の子菜

しまし不可一対句

山よ

対句もまちまちなる

浦乃宮よりも同じ

社よ

所花と云句

乃宿し宮津

へ宮歌さゆち

ともの宮津

天津民の人

海奴と出る

なる歌也

八幡と云句

歌し神乃清

八幡んと云句

屋とうたと

屋まちまちと云句

浦乃宮よりも同じ

社よ

所花と云句

乃宿し宮津

へ宮歌さゆち

ともの宮津

天津民の人

海奴と出る

なる歌也

八幡と云句

歌し神乃清

八幡んと云句

屋とうたと

ぞりんとは遍人面名なり
八幡と書とのへは八まんを
てゝ文字へ　　面りとりは
とゆゝもきとゝ次

八重とゝ云河連よあれは謝ハ
連ハ面と嫌へハ謝ハ七句ゝ面字
かゝ形ゝと云河又ゝと数
よ漬句いゝ句ゝ字ハ河し
まゝゝゝおゝと云附ゝ
付くゝくゝゝかゝす

置よ　くゝき河面と遍へ
　　ゝゝ物よくゝ文字乃
面とゝんまゝしくゝきよゝ
二句とゝくゝ今文字よ面を
遍とおせりおゝ遍せゝ

遍列くゝきよゝ面ゝ遍ゝ
句物ふゝゝし道のゝゝさゝ
乃ゝくゝきゝゝし世界のゝゝ義
よハ面ゝ河ゝゝるわ君よゝこ
くゝ歌のくゝくゝきまゝトくゝ
き物遍のくゝくゝゝゝとゝハ
面乃ゝしゝ乃ハ
くゝんゝやゝ乃云ひゝ云ゝ物の面を
遍ゝゝハ面ゝくゝきゝくゝ
き暁月日のおぬゝるへくゝき
くゝき歌のゝゝゝハ面ゝ
河ゝ句物ゝれゝ面ゝ遍ゝ
くゝ物句物ゝ物遍乃ゝくゝき
義乃河のくゝ義ゝゝハ面
付くゝゝくゝ面ゝゝへくゝす
如ひ道理をゝくゝ寸二句遍

ときこめん事ハ合点ゆくさ
ふ事もし月のくるきんのくろ
きるやくよ風ニハ名あるの梅
るれもよるまて付くとも用
ゐよハなる所まじき梅ゆく
待ちらく萬端あるへし
は用よ木乃下くるきなと
ハ木乃下やミ夜ハ今も二句隔
こ嫌ふへき釈迦よハ七句さ
るへし

江生小 夜ちりしみな月よ
　雅ちりしなと付る
月ちよ隣をのし月さにさへ
字ニすると指合よハあらゆ

風よハ山 名所よハあらゆ
　表の山と云事也

やゝ文字 折合を嫌ふへきハ
　のやハ二句去るへし
数のやゝ文字ハ文字なる句ハ
てにをはの句によりてハ分
別也

風也野 山と風く京と
　風く畑焼萩の
風字京萬ふとやくなる
嫌也

奥深（やゝみ）川 夜也

海

松と雲 文句あし他人なとま
　流ヽを事と面ま
しく木乃芸を裏にゆく

二句なり

松風　松乃風とのいろくく
二組の文字不入
てもこのうへしの文字と
まくくハ二字寄ハ音連り
くのあとくゝ雅よハせり風
と雅よいひくくと一ハとこ
流よりる雲乃乃乃松風
も三乃同

松風乃時雨　名の事を病
二句可通松風乃時雨ハ
相成よりる流相よ
とねもれ雅新式よ洞の
時雨とみとく定うる雅

ひるこ流ろ当ハこんくく
とりへて人出ん不審をへき
義ろくく源んるへし洞
雨をハ流相よる不通時雨とハ
みるふるくく海ら相ろも
きくく雨ろ古人ふんふくら
ふうくと可知ハ通理ろ
くふけまくし定よしハ
さ決

松風乃雨　雨よ雨雅ろ
七句ハ雨ろ句ハ流相よ
二句雨ろ
松乃雫　同ひくく義風雅ろ
二句ハ雨ハ
松乃孫　雅こ孫ろ雨こ
ろ孫同ろの歌数よ

[illegible]

松乃色　百年に一度咲く
[illegible]

松乃雫　去る[illegible]

松蕊　松乃雫より云句
去る[illegible]

松濤　松濤寺浦山[illegible]の名所
松乃雫より云句[illegible]

[illegible]

松濤　山額より[illegible]
[illegible]

松門　[illegible]
[illegible]

[illegible]種稲[illegible]の
云[illegible]の名石の[illegible]松
[illegible]の[illegible]非種稲[illegible]の
松[illegible]稲より二月人[illegible]名よ
云松[illegible]のよ[illegible]
乃級乃云[illegible]も[illegible]よ云松も
[illegible]名乃松稲も[illegible]
[illegible]月の[illegible]云[illegible]根[illegible]
[illegible]の[illegible]稲[illegible]
[illegible]の稲稲[illegible]乃日[illegible]云
[illegible]

松膠（やに） 種稲[illegible]稲より[illegible]
[illegible]稲[illegible]
かさしの不同[illegible]
葉の[illegible]
[illegible]

奥[illegible]稲より[illegible]
松乃[illegible]の[illegible]葉も種
稲[illegible]
なり一[illegible]より[illegible]稲[illegible]
[illegible]
[illegible]
葉[illegible]
と[illegible]稲より[illegible]
[illegible]葉[illegible]
[illegible]松[illegible]
[illegible]
[illegible]種稲[illegible]
[illegible]の巨細[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

して葉をみめをかりのるれども
根むかしのるれて拾遺し
蘭 蘭よハ二葉の蘭をまつ葉の蘭まつ葉の今一葉
のしたるく八二蘭よいとをハ結ぶ
結意 二蘭とハ二葉と八あるの白れる
るり 拾遺 玉風よりひろ家
てもとの白の間を結乃宮みさへ
いろすもろ結意の白いくり
もあるへし 蓮よ結まんを
いろ稀もも結意乃ふあるを
二乃かよ今一あるをしたる
せるもをうしそれあくを
錦編起ふもし ごそれぬの
あ夏乃 書ぬ結ぶ みるの蘭
不可以剣

樣 樣和かも生数ふも若の
樣 宮ふ宮二白埴し馬樣
ふ蓮ふ面ふを埴へを蘭ふふ
七白ふ

梅 ふ白去の面よ書し梅書
のこの のふふ東ふ
名流よあふ わあふ
むふあよ梅書とふ文宮よ
宮ふ梅ふ梅ふ時ふ書ふ
を梅の宮ふふ蘭よふ白し

樣 ふハ木の宮を不篇ふ木樣
去木の宮ふよハ木の宮よ
白可以篇 長木のかふ以ふ剣式
樣樣 樣ふ木のきの乃宮ふ付
ふふ木よ木の宮を篇もハ
樣ふふ白けまふもまを

いつもの二文字を本篇よりまいれん
字をとる書ハ榊ちゝ山榊の葉なる
ちゝ云時のまきれるわ榊榊し
本乃字よりまた不篇又まつ本と
二字より書いたまの屋まの本
のうしと云時乃ま榊榊う
あゝ次本の字よりもまの字
うちも云句榊まの本と二字な
よりくしとさ本ちゝう紀載本
をかむちゝとあし

海さきよ　柳榊るとよる

不篇榊まき　榊よ榊ちゝまきと
ちゝちもまの名と云わちゝ
てしとちゝ榊ちゝるのも文を
ちゝ榊ちゝ

しく秋よ次ちゝもよ篇
ちゝ本と篇榊ちゝくわく
沒泉篇と字横清郷を
あちゝそれちゝよ榊榊の
又像類の源山篇葉の紀
わく　日ちゝ榊まこあ人も
ちゝ榊ちゝるとちゝ人へ
ちゝ本の紀よわちゝ榊
ちゝと山ちゝ清くと品葉
ちゝ榊よまちゝ人へ岩ま
ちゝも榊む神系の字う
ちゝ山ハ霧ちゝちゝと山ちゝ
榊乃ちゝ文付ハちゝ毛と
中字ちゝくちゝあちゝとちゝ
ちゝ篇を略しく榊本ち
計ちゝちゝちゝよちゝの紀ちゝ

[illegible]

[illegible]

又此流も古より絹花乃事
ともにくあらわ葉も様より
ありていさく此ことくいつわそ
結られたる夜之紅葉をるる
物りすく決とくるにより
める秘なる別よ紅葉を淵草よ
のあやしくくあらわいう夫
然来なわ是りつくくる流し
草よ脱も色葉を本り
後ろ古おわ出にも
草は本乃紅草の部西ち
よ蘭自取くいわる数文
しさ結も秘も家乃流よ
双方よくらしうあへるさ
御鉄尚後世のまるとまり
継来篇乃文字を第あく
いそんもめ自られた秘とふ
時たる木の数ありへし文字
我とよめる紙本といそんも
めゐられたる庭さきのうつと
き行あ草よしく後へ
ともも様説筆さ示お
あるくひ家よ離よいま存ふ
存さり

鞠乃事は

庭乃いろいろし一乃外めゐと紛
武よまさいは連よ庭一るく
鞠乃庭是を付まもとるわ
離よい今一あわ趣家空ある
ありわを撫くくあら存るれ
も庭乃字を本ふく花所
ふも可け無し継萬住昔乃

折柄なとありても又高時花
盛りにもあらず場乃空
乃かわるにも新式よりやう
よ我あり誹にハまりたるを
あるハ諸家のかたにて入し
座し場乃趣ありハかの家ミ
取よくしれり給ふ
定家ニ 二句去ルを定式面と
後こさせり勅定ありし
新式よりしき給ふる乃義
あるもの道理あるよしにも
義ハ義りよるにのいふれなく
芸術誹にハ不背所由斎
いとも文字乃取り 記し給ふ

真薦(まこも) 菰也 種類之 薦とも
刈るを又或ハ編さ
る薦或ハ蘆薦なとハ菰也
にも種類にもあらん
眉乃霜(まゆのしも) 述懐也 冬にいる
を結ぶよりあらん
眉いつくしく冬に連するな
し 誹にハあらはくく二句去
山眉柳の眉蛾(ぬか)乃眉なとハ
つらの眉 他の草木名乃眉
他は三乃内なりの草乃名の
眉他あるとも実乃眉他不
可 去る眉間(みけん)も三乃内なるを
眉ある人と云人の名なと三乃
外にしてを見てとしてあるを
去る

まくら寝海となむ　諸説 たわ
海となむ　説なるわ
海石やとよ　事付くもる
しうく寸
海し　説よハ二るわ　綿よハ
三ゑへし打を嫌ふ
とありとしすハ二句去るわ
わしくる嫌ふ説
松尾家　四月上申見え
云く
今日　二綿よハあん日と説
わするくと一打を

久しくいとこゑや
冬よ　昨日明日二句去る
今日よ今の字不
嫌綿綿よ説よ続くるん日
とありて今の字より二句
きらひなる也
と納め　今も嫌綿よこん
納といくく今の字
よ二句ての字ハあるよ
打あさよ七句去る
冬の月あひ　説にあり
を也別なふ
乃字入ると説ふの秘も嫌
のうたるゝり
蠟と　冬の何蠟あく
も綿よハ又句去る

蝶にはかる火燭蝋炭やく
かやり火梅をかをるなく浅くく
なとに不付同しことにて候なり
咲花に絶ても見る袖なれと
付くもくるしからす付松竹
木乃蝶にハ火乃字をさけても
くるしからす付松竹柳氷草に
眉目なとのたくひくるしからすの紗袖
乃名のかハりにハ雲霧なと也又輪溪
木せうるへく霞乃字ぶれなとのやうに
袖なと越をも隔て付くへくからす
ふるく付文御乃名かはりあるへく
また蝶にて每名の蝶にくく
着物や紅縁の余るよりなむるゆ
たとへも每名の蝶なりけり文溪
乃あまり蝶ある中にかくるを

每名乃蝶にあるへし火鳥かん
思ふる神しきて海上の
蝶耳袖にかはらく雲霧にこ
句去されは雑にハ二句のさはり出
乃蝶緒乃蝶糸乃名かはり留
蝶耳袖に二句去るわ煙蝶の
異蝶耳袖不付へくもくるし
ふるく付蝶の字にハ五句去
ゆゑんともわかへし蝶耳
袖に二句隔へしされも異の
まにまそてくあつゆゑんる
印し蝶耳袖に不離
もとよりの斎衣之流るも以下
歎くるく　三句去く
歎の里　夜たり

くれ第一と云見　篇突なをし
二句去るゝハ　嫌にハ其句面を嫌
なり
三句わ　三ツ物のゆへ面を嫌
嫌にハ七句去るゝ
久し　と海わよハ嫌よ三句去を
雑へし連不けしいらん
まよ不嫌とハわ色張るゝ
二句嫌へしらりの前よ斎
三句しれらしおもらんよ
も不嫌と連
歟よ以其の心へをとゝ
まくわらふ綱乃りをわと
やれまてし丸はへくと

不刻と游よ古分よ操氘
きれよくしなとおるをと
見えくされよくれと義理を
付しまてる誼押りその證
乃おやまわをと志しまこさ游前
なれその證も落連その雅の
證なれその讀の證よハ其よ
おしゆ吹よそんと云と優也
よ句との聲くしと清ら
ひあるし多游豹しとりおり
ならかをいへしかれと家も
しとのきくなしと
清きくるをるわくわと
藤若志くる綱よハおもく
しまうしのらしるわ
事を正理るわ句後らしらん

まきしるもぬといふ説も侍れ
せしるなるらん兎角一数十[illegible]
乃誤なと成と云もし侍るに
成りのあやまりを弐説に
扨るもありて二三百年前
の人ども説を成りて成り
なれ共今百年その年にも紀
乃古人の教ありしよりもへあらく
迷(まよひ)よ悪説をいまだ有かよれ
なれ人とも人をいふ古説ふ為
かく沢ある理乃表示而を
この道の正義と為ちぬ為し
唐乃儒書の古注新注あり
同し
おのつからも志ある家よしやうの　あるき

詞も連歌のごとくなれハ誹
諧には面を嫌ふなり

下知の詞　二句去

嫁

髪置(かみおきし)　只恋といふ字を
ぬ寝覚(かまと)ともく嫁さき新
其跡又新をしても嫁れ里
とふ嫁わ嫁の古さハ春ふ
兄志愛姫後妻嫁乃数ある
ハ二乃内一ハ前ニ嫁乃古里
一座一座ニ二句あり嫁りな
嫁の女乎一嫁一嫁ニ一嫁り
一座三句なれ共古くし数あり
嫁くもハ二句乃内成り

名家乃古今にもく婦乃奥都
ありしを我と思ひ脇乃古ゝ
に新る通を婦し婦つき新も
婦くらふ旅まゝ前月脇る田
舎乃人もさも法ゆるれにも
通ての思と古法いりしきせを
先ふ新乃人田舎へゆのまゝく
新をと古ゝとふすりかはるれ
も新をは通ハむしさき新と
云ハ平安城にありすゝ事都
ありし所を為をも得して
も為修さすしくもいへと
脇乃古ゝありあるべきハ
それなしは前に一向に通ぬ
古ゝに新不通ぬ古ゝるゝく
今一あれ為前乃古ゝにて
新九重宗の字をすて而と
通月乃新新乃新をそふは
いはれの古ゝも不通古ゝを
一座三句乃趣ふれしも當意
てもふ改し同古ゝとの二せぬと
同古ゝとハぬ古ゝともしく為前
と脇とく乃事し
留為乃古ゝとらハ為前に志
古ゝえもしハ為前にて二句もの
里風字にハ誹に八三句去て
古と云字ハ連にも前を通と
あれも誹にハ
而をの申しふりを新をに
續くあらにいて一座にて
ありと可付知意に常にいふへ

よハ二句と首よハ俳句体一切
不交俳諧るあしくるこの類
よハむり二句俗なり年
をゆる月をゆるかなくハ又
字制なれば俳句体二句俗
略しも可なるべハ面八句代
用よハ謝しまもを可俳諧
なるハくるるあるべし可
歌
一俳句一歌一歌ハ一歌とうへくく
事しかるやとうべし新式歌
和よ連しは乃歌の歌なるし
て去乃歌と歌東氏と歌
二句の物しかる謝しハ俳乃連
乃歌ならば歌ハ不歌敷
乃歌ハ今一歌ハ歌ハ二句乃物
入ならしし歌ハ歌よ漬歌ハ不
同ハ乃歌人綱を歌宰相を
歌ハ歌をしての人中ハ名ハ歌
東氏乃物よ歌を歌東物も
歌東氏の中るハ歌ハ歌
ならしも同ハ歌ハ歌東氏
物ハ物し歌も漬も一歌三句の
物しは物をハの人を歌東氏
歌東の物雑を歌ハ歌ハ歌
ハまよ丹たるるハ物を連
謝よハ物ハるるるハハ歌ハ
又物をまくとうとを物ハ歌
乃字をとけ歌よ面を歌ハ
て物物ハも
もあるべし歌よ
歌三のあるし

文　恋に一聯に一文字にきを
むすぶ三句乃間をさり嫌
ふハ恋ならくも聯ならく只志
文字なくも三乃外にて今
ぶんと称するに續くるとし清
将さら疑へく新式に文字
とあるを思ふへしゆへに文と
まする　文乃書くなすとそ
事にむすぶとたゞ云ハ恋に嫌と
人おもへりさまれわたるハ只むすぶい
ひめる所詞と清され文字
乃事之者れも文字乃人詞と
恋乃文一おもしとそ恋のむすぶ
事ハ聯乃文一句てしとそ聯
乃むすびわたるへしすた文字
の文のきことそ文字のむすぶ

ゑへりする文之のかまと一
可いひ分わく　四文　文章　文
云　文者　文学　文武　桑文
證文　起請文　縦文　諷誦文
純文　文書　文臺　文車　選
文　文箱　文通　文才　文筆　文
集　やうの類之文乃字よ
ある句物人なるゆ　文简　文安　天
文乃類ハもおほハ手間之　文林
文人の名之案紙に文雅といふ
蒙売よ此字をとくくなり
公文　係句篇に人倫　天
天文　将士　官之非人倫　文躰　喜庇
乃旅名之非人倫　文盲　是ハ盲とも
名けハ文よ二句之　文学　係之雅の儀之
和漢聯句乃作法よ儀とも
人たる非人倫とよべとも郷に

[illegible]の[illegible]を非人倫と
ゆるせる法華唱合の法師衆
僧を野伏山伏と通称まて
[illegible]門弟倫
[illegible]乃宮汁を人倫
よせぬ[illegible]人倫よりも劣
とおせる[illegible]九僧よりすへ
除蓮華[illegible]乃数を
[illegible]を[illegible]と号す
[illegible]乃宮付くも
[illegible]僧貪僧乃
類を[illegible]人倫[illegible]僧数
[illegible]れし人倫
[illegible]を始め[illegible]八
祖[illegible]の[illegible]山[illegible]山
[illegible]号

善薩号[illegible]
[illegible]人倫[illegible]
乃[illegible]乃[illegible]
[illegible]号[illegible]
[illegible]号[illegible]
[illegible]号人倫[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

無籍乃文書のごとき乃紙なれの
あとを乃紙なれは籍出の類
不可付無籍乃文書なるを
怖懼乃紙なるとは面と可無こ
乃文書乃文よりも
こうこうす學の無籍學
士籍之人出籍書籍面と可無
無籍の文書なるはとこう
もきこうこうす文書無よいとこ
乃紙なる乃紙なるもきこうもも
ひと文書三句乃面ことへうと
あり乃紙なる白紙よりく
各別の書し籍よりは文書のよ
ばこうこうす文書の
文なるこうこうす文書
乃紙句乃紙なるこうこうす
可はこうこうすとこうへく
長乃紙乃文書入無れるり
句めこうこうす句なるこうこうす無書なと
乃文と裏面よりこうこうす無籍學
こうこうす裏面よりこうこうす
無籍とさハこうこうす人なるこうの
まこうこうす別可なることのこうこうす
文月文句去とあるもい籍こ
文乃字字あるけさかりの彩彩
よ一産三句の句よりもの無籍
文月といまセクよこうト
乃文書とさこうすゆへこうれこ
文學乃文よ句こうこうす七月
乃長君よりこうれこうす月といい
てもこうこうす文月とこうこうこう

世ゝ物と傳文乃字より七句去
句一墨より文句ゝ文句ゝ文月の雪
ゝゝ云句ゝ文ゝ文ゝ文

間に一種宮角の柏を二角面さ
つまわるく文角ふとをもい一倍よ
るせるるるめ角ゆ若云ろやうの
ク絡ち文字ハ和りくあれも鄰
猪仕ときゆ人よ絶必軽重を
とろう寸法を宮るろ面
成姉のとゆもし組間絡柏
なるくれをを姉角ちさ

富士と汁も

山数と富士川
山数ちあくん

姉りくる

先云猪牡丹の名と云のよハ美の
新名れ花文の象柏ゆ角り
連俳よハ文りよる次と新歌よ
牡丹一和名ハ一れりとうくゆと二
角と二枝ハ角ハ若ハ象とりくんら
ゆ文ちりあくゆ角ゆ若ゆ角ちよなわ
付くちくるる

源さ濃ゆびき文ゆ柏ろ氏数
角ゆも角柏姉
乃字ゆ新紙を柏ゆ角ハ山乃と
柏柏ろくきくる次

私 鄰ハ文角ち藤と組南と汁
ハ藤ハあくゆ次藤ハ不成ら
川南組川南ハ西海を行人の男
ゆれも藤なり法ゆくうくちゆ
文寸若の新を入きて藤ゆ角り
南も藤ハあくん波くゆ連ハ
藤ゆりとハ川波海乃ん柏ゆく

以海を大海波〜と云へり橋乃なる
川よりあり茅かりも堆来する
ものるれも船よりあり次第を物お
よ波〜と船るわとるせるハ
新或を見そこるひろと見さうり
新或よ云海海の波あい船と信号
不ても船と云〜茅乃小船とて
小舟おりの舟たる〜〜小船う
法か舟毛ホ悲船酒舟馬舟
不乃云左迄舟此船と云せり
ものまつて商賣の人今〜祢を
云成角〜さわるよ的信〜
い業平るこの乗下も船下
あり作るへ波う海人まん舟ハ
なを西へゆ〜るれ海海の

船ハ新作船の船
船よあり次海船舟ハ雲人
乃こあと貴人も海と海〜
せ海へと船なる船〜泥乃舟
物舟死いけの舟あ乃
いさわ舟来舟あり乃舟
乃顔海船よあり次小船舟
の乗ホう海よも船れいよ
ちハ乗死とても海さす海〜
船とる〜も船乗海乃たる
〜白船よ海乃海さす
海祢も海あるれも船りあ
船乗海船と舟よ棹さ海と
海と乗舟毛海船ると船職乃
舟と云わ言よハ川舟乃所
さ乃あく乗さすを以ちと云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

姫の衣の今様古さ物　其よ意之
衰傷乃
[illegible]
[illegible]
[illegible]

文乃字　新ふるしきと雖ども雖よ
ふるくとも乃字と雖ども二連よ
あまりと雖よい源文ふるくとも
よいのくさまくさ有しかとも
新ふるしきよりあまりに人の年
乃字のくるしみ三乃字ふる
まへし文乃字白紙とうへ
紙くへあまりと可知
源氏二句ちし梅ときよ源氏
こゝ山こゝろ乃字武白
ちし文乃字よこの字と
地屋よりよりそれを
それを張しめ
す鶯のふけるあるひよ
ふるとしの梅ときよ
しわ曉とをくし乃梅ときよ
曉しわ梅ときくを
と二字ふるくを
つと曉まくの梅ときを
云るわ

道雅さ梅ときを　鶴乃字
字乃ふるわ　ふるあ源氏の

冬の文衣　十月節ふる

俳名　十二月十のるふる文一日
と三十日をまるり

右

木枯　蓮よ一句の梅と雖よ二
ふれとも源氏の梅さ

石ハ耳ホ[illegible]
乃末拍乃霧と二句をへな
もし末拍より末乃字二句去
しまのるまるけるとあること
いひくも同おこのことへい拍乃
字別よりまて句をうを
地ちちと風雅より二句をし
云云雅より末より拍ともわ
をはとこハ云湯欠末のるく
るハ拍をを地ちちの跡へし
雅より末拍より末のる拍末
たまのくハ面と地し拍ちと
字仲一より三句をもしそれも人
のりるの乃乃乃乃乃れるやとうを
二句をあるうを時を離乃字
物乃句おもあ末拍ちあるい拍ちを
吹ゆへなわ

あ[illegible]

あ又一おう雅よい
いひくをくをあ二ひかうう
意慕と数より今一ゆをこし
意乃句をてハ恵ちう句
連よも今一をちをへも雅よ
ちを二あるへなを義連乃こ
ちを意乃句三乃ホより今一
可をを意乃字ゆを一雅より
四句あわ清拍をを地へしあ
意乃句をあ恵乃字二お
あをを意三句乃四一句う
をへしを歎の恵もひゆの
四句わ

意山　無らし山乃〳〵様〳〵
あらきこゝんしかり
新式うも山新よりこゝ
和よへ角わ係お脇乃名和よ
無乃山とこゝ名係句絵名和無
脇し山新よ脇し作き無の山
乃句絵ぐらせけうき物
なうし脇ん作乗よとへし
脇ん作も海玉志ク絵こうし
宗道只無乃ゑへよ新〳〵
山新よきこゝゑう絵なわ
ゑ古変し毛新式乃四を知
角宗道乃さこゝ乃ゆく作る
らく結合ゑきくおよやこゝ
きこゝ海角をこゝ化准
ら〳〵

無乃句〳〵　三句ゑこ

脇　只一発式れ式ひうく〳〵一脇
乃秋げ肉しよ可ゑ山ゑ新式脇
よハ結乃脇二句ゑ山よ作ゑわ
九月の夫名ゑ名ゑ作よわ
てうへ結り二句ゑく脇り
末乃字ゑの字二句ゑ去ゑ
組末乃字結ひへゑ句ゑ
ゑ物を海角ゑ句ゑ脇
ゑわ三乃肉ゑわ物ゑく
句りゑす

末乃発句　結結ゑわゑゑわ
浪結よ二句ゑよハ
七句ゑこ字ゑ物ゑ式ゑれゑ
浪結よハ発角塩ゑこゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てものゝ詞をいへる也
なをさぬ心を物云詞の
むまれ出るをいへる云
今案勅撰集よりまれ一首
よハくのあらくあらくと
一首よハきよあらくとけ
つまをおぼわ遠をり新式
きよあらくとあまて詞の
穿鑿ハ不肯定

九重

九重ものゝ
よあらくとけ
詞を勅撰集ハ
よりを遠し鄙ハ面を
なり九重ハ
小一あらくあり
九重の詞
九重の字ハ
和ハ續くハ
字乃ハ
ハ字ハ
ハ字ハ
ハ字

新式おもてに葉の字不詠
あるものをもかくしも詠くるも
さ枝とも花ハ葉乃字より三句
きこゆ毎又あるものを花乃とも
言乃ものしも花も葉の字より
きこゆ毎あるものを花通しに詠
ゝ云字ハ面をもとをはるもち
詞花言乃葉乃ものをもあるもの
葉のをよわをもとを詠に詠
よ花をさうするゝいひ
毎言乃葉もよあゝ侍ぬを
ものなかの乃より面をもちを
始へし詠の花言乃すよ
あゝ侍ともも用ひ集なく
をもを新より不可有侍ゝ云
ひ所よあるべ用ゝの葉の通ひ法
し詞花詠抜るゝ数よいひ
てもひ用しあるものやしあく
その記非撰抜法侍ゝあるの
事なれもあるの葉の道り
新と可申通言乃道よあるぬ
詠ゝ云言みゝ八面と可詠ゝれ
もり称あゝ詠ひあくしひと
号乃あゝ詠ゝあるゝ
ゝ可申ゝ侍ゝ吟ひけく言
ホのを侍ゝも法通可詠

歌一　あしひきの山ゝ
月乃歌　洞乃歌るゝ一
一雲霧乃山乃歌るゝひく
ゝひかるゝ小一歌言
一雲霧乃山乃歌るゝ新式歌
ゝ謝ゝハひゝゝ

水餅水板糖水こんにゃく

雑し組合可あり水
文句乃間し水板（ひのたな）水板
食し水魚（いを）あり水板 水魚
ちゃうし海むしゃうし雑し
水乃ちゃく水板も雑し
文句乃間あり水室水板間
数なしわかりよりへし水
奥うすしひあるひひひと
もむ類あるしあくあ乃間
水よハ間し水板を通しは間水
室水板ちゃうしうるまうさう
ふしわ水よりも奥水（ひ）
乃面あるし水よりわを
ちゃうし組水乃面ちゃ交ちゃん

[illegible]句雑書を
定家卿取捨あり[illegible]
てもひとりのひくも落形を
[illegible]
[illegible]
数よ漬水汁と一句裏よ
[illegible]句と知[illegible]
[illegible]
[illegible]

心乃枝　心乃枝　はるゝ　相

心乃枝とハ文乃字のもとゝ毎こ
さゝ形ちまし又詞乃字の
心もあり心乃枝を雪腕の
なり又数寄とゝ云心ばりよ
もちく好文乃字もよ横ゝ
文おゝ文ゝ文ゝも所なり
可依当秘

あやをわさ　相いふ事越
と通なわいふ
さゝゝハ結いふてゝ
ばやくゝゝふ歌口ぬばたち
あくゝゝ云ちさゝ横ゝ相よ
結月也横くゝ字よ一字あり
字ゝ二句時ゝ

孫ゝもつと俺ゝと

二ゝゝハ文の字ゝ
稽くの義あり
毎ゝあり
ゝゝ
ゝゝ
ゝ
文乃字あれ
ゝく言の字
く言別可有事の字と
言の字ゝハ付くゝ
あり

あゝゝを言の字一切不露
ゝ祝字歌乃字ゝ一字

[illegible]と言乃
字より二句場こ曲事ハ事の
字なりあくさちやくハ信句祈
言乃字なりわ文事の字を
くくもあわくくくくあ前
もへしくあもくむきあやくたと
あやくハ言乃字なりわ されと
ハ信句祈事の字を去しも
あくこへしくくくこ決しとあくこハ
言の字よりあくこと決うこと
信句祈事の字をもあし
くうあやくさと云乃字ハいくう
あくハ事の字くくくの初
源乃字ハ祈くくくの前ハし

法と

歌よりもあるまわよ一
[illegible]
知乃しくくくくくくくの句を
三句法くわと呼ハ三字ハ
句ふくくくくくくくくくくくハ
相ふくくくくくくくくくくくの
花の時咲わくくくくくくの
ゆくくくくくくくくくくくくの
を代ハ人ハいの神くくくと
乃くくくくくくくくくくくくハ
絵よりあくくくくくくくくくへし
くくくくくくくくくくくくくくの
ふあくくくくくくくくくくくくの付へさす
を二句去ふ字ハ者別の相ふ
なくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心月 雜 非新古今 雜部 月乃字ヲ
ゆるしたまへ
とゝ
も

心乃字 非新古今 恋 親乃字を
ふかくいとをしみ乃字
もあり
ゆえ 恋情より
されども
はまて

心乃友 俳句 恋 友 西友とよく二
あり西友
乃知人ちりぬ

恋乃友 俳句 恋 人倫よりあしく
恋乃友 俳句 恋 人倫
恋乃友 俳句 恋 人倫
恋乃友 非新古今 恋 共乃字
恋乃友 俳句 恋 人倫
恋乃友 俳句 恋 人倫
恋乃友 俳句 恋 人倫

[illegible]

苔道 雅経卿

[illegible]

苔の庭 雅経卿

[illegible]

苔衣 苔枝 非雅経卿

[illegible]

意乃馬心乃猿 是より非生歌二句うつり人

[illegible]

あしるあるあ乃さ 此一字

[illegible]

未世 未の字なむの字なれよ

雅うつ

[illegible]

[illegible]

ひる 昼面しるしるひ物のこと
昼面よあり

物箱（にと）よ 小乃字不篇小の
字を書まゆ
物箱と書しるひ物のこと
字をハ云句書一句
云字よハ対くもるる
すひるとひるとひと文字
うまゆ
紙箱 名面よ二句書るる
紙海と入を三句云
なり

紙海（ひと）よ 紙ばもの紙を海と云
恵美 梅酒小あり恵美酒と云
云葉を添ハ梅酒よ二句
去年今年 一句書あり
謝よ去きよ
新年 去歳 あん孫ん 南年
新年改年 あん孫ん 南年
ゆゆ
ゆゆ
ゆゆ

白々非迷惑 非迷惑 弼玉 卯 竹のみ
ものゝの文字別よ一字清く
あ稜ゆるめ乃間るわ利後
乃るもめ乃間るわ人名みと
児と白ものゝ竹のみる
乃るゝよハ付白を始へ
金るゝ非るゝ書るおよハ付くく
もゝるゝうゝるゝ字るに小文字
付くもゝるゝ扇るゝ
金るゝ数るゝ糸るり
ものくくの見るゝ白ものゝ
る乃年るゝ乃白るゝゝ書
つるくハるゝわも見るも付く
もゝるゝ示るゝ

小書の物 鶏物を白物
もゝるゝ示るゝ小書る付く
ハ鶏物を白物小書る付く
をも白ゆへし物ゝ法ゝ
ゝゝゝゝ 毛小書小書の
名るゝ

あるかゝ字えるゝふゝ字
花小百鳥ゝ 毛字代額
汁を始りるゝ 鄰よハ只付白
ゝゝ

一度よ一るゝ
るゝハ

小松引書 ゝゝ白おも二汁
ゝゝ白鄰ゝハ
ゝゝゝゝ
ゝゝ毛ゝ白の
ものわ

あら　寄風と云まと

本乃下雪　なし　稀なり

あり

小多濃多　物と小多るとき和ハ

雜と多多るとも乃まし

物し小多るとも乃まし

江

江　連よ二雁よハ三ひ内一ゑ

名不ゑあ

えびそめ　物とゝの艶

多ゑ多なり

葡萄　えゑひ

えゑ　ゑ和百和

只一なり雁

源氏　源氏ゑゑ乃白ま

今一ありえゑあ　わを

ゆゑし志ゑ　ゑ乃宮ま

えゑ　ゑ三白ゑそれ志

不乃ぬま　えん人ゑ和ゑ

源ゑと志耐ゑ

ぬゑわ分　ゑゑ

えひと　一人倫ゑ

續　一東夷　小狄　南

蠻　西戎　ひ四乃内一ゑ不

ひ内ゑゑ南蠻ゑ國乃名

ふるわく蠻の字えひと

ゑゑ人倫ゑ

えゑ蠻　只一人倫ゑ連ゑ

一白ゑ　ゑれと雁ゑハ

二あるべきなり義なのうち雖ども
[illegible]へしいかに東夷と奇
[illegible]云ふ所ひとあらし
[illegible]や寺東夷[illegible]不可[illegible]
七月の[illegible]と夷則と云ふ
[illegible]ひとと字を取る

僧

寺　天竺に雖二居[illegible]一連[illegible]名
[illegible]と長二あれども雖[illegible]
[illegible]一[illegible]名和
[illegible]僧[illegible]のもの[illegible]
[illegible]ことに[illegible]
[illegible]寺[illegible]
[illegible]二句[illegible]
[illegible]の場寺乃
[illegible]雖居[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
世俗[illegible]て浄[illegible]道理
と共に[illegible]
河[illegible]寺乃[illegible]
も雖二居[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ蓮をとゝへうゝ浜とあり元も
さゝうゝしのひをもつゝの色ハ本紫
初ん乃人を氣味ゝうゝあや
梅をて分爰白をえ分ぬ花よ
蓮雖をゝ乃ゝ舍をゝ
ゝ乃ゝ約蓮をえ葉天爰よ
ゝ乃ゝ爰ゝ乃ゝ爰ゝ乃ゝ
城鄰よりも社頭ゝも見ん乃
ゝあ時をゝゝん乃ゝ乃ゝ
ゆへよ彩武ゝも天爰の具よ
不天爰し天爰よハあゝゝゝと
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝれし蓮雖ゝ乃ゝ爰ゝ
真おゝゝの乃ゝ場合ハ白蓮
乃浮海を爰めんゝ爰めを
あれゝゝ爰ゝゝゝゝ
合ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
へゝゝゝを斟酌をゝ
実ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハ思ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ洗水

ゝ洗水よ
ゝゝゝハ白ゝゝゝ
ひゝゝゝ洗ゝゝゝ
名なし

てゝはの字

ゝ合を不可
ゝ彩武ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
字ゝゝゝ乃字を出ゝゝゝ
欠形合ゝゝゝゝゝゝゝ
下白乃半ゝゝゝゝゝゝ

山よりのぼりたる白雲のいとあはれなる白
のうへをはなれて空の明るくなりゆく
月をみるにこの句よりほかにまさる
句なしとぞ人のいひける
かりそめに字をかくにも同じ字を
重ねてかくことはいとあるまじきことなり
されどもかくのごとくなるは同じ字
なれども一字は乃字なり
乃字は
ひらがなの
ひらがなの
ひらがなの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雛諸九筆

雛

二雛よハ毎年小毎天子ゟ
給ハ傳くれ物とゝ人山
とゝや
さゝめ 只雛よハ小毎 ゝゝ毎
村毎ゟくつのゝくに二
あるゝゝゝ毎毎給ハよゝむ
白あゝゝ村毎とあるへゝゝ
ゝ毎ゝあゝくも二ゝ
四月ゝゝゝゝ給ハよゝむ
時ゝ村乃ゝよきゝゝ次
あゝ 只一雛よハ二あゝゝゝ
あゝハ毎乃ゝゝゝ

[illegible]

松風乃歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雲

[illegible]

岡伽流

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

霧　元年二句乃相と決定
新式の紅葉は嵐山
三句もへし　山年の時嵐
と整よりの　くも三句ん内
なら又嵐山　の名紅
面とりへく　三句乃かよ
吹きけし　きの紅を
て風紅葉　くもあ句
なりと　三句乃四句

霧　如渡相撰
霧　よい二句完

月　元一　紅葉乃字入
て紅葉の月今一
連よ　きてあり
撰よい　乃字入
有名一　紅葉今一
と紅と　三句可
撰分東　月遠帝の
撰よ　月の紅乃字
と紅乃　月今の月今一
あるい　月の
月同名

雅楽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物風　只一物乃風一物ひの
物なるよ不変を代二句
を物乃風をしくくんあるへし次
謝よ物乃風と物よ續く
ゆえ二

物乃歌　と句なるりきんあ
句を物よ不寄山有
句を物よ不寄山有
あさりけり　新式よ雅歌
不よ載し雅
句を物乃字ある句を
句の歌あるくゝ雅歌ること
句とをを物あるりやを句
代よ不寄しるるの物
あるるるやこ除句を清
句を歌あるりて句の字
ひるをくを寄しをひふへる
乃不寄句を連乃為句を
のひるを除あるくを乃ゆの
物なる

連歌　二謝よ連歌ハ
星を連ハひ不歌

連句　連よ二句を連
いを連をへくくを人
しを句をの名乃を句
端端乃句を句清二句代句
焼句乃時を句を不連を
明を句をの字を二句連を連
加を晨明と四字を古加を
明乃字よハ文句とあれを
謝よハ三句を句をを句を

あるを不肖対けさあるこい
不審を明乃物なるハ新らし
へを非新らしを明よ月次の
月を二句を句一新らし月
よハ文句をくさ新し月を新
あよ同一句よハ物を日と
星よハ二句を句

明るを

明を物
皆和新らよあ次
新明らよハ二句るわ
明るをあしもてと
明を新し次を新ふを和の
明くをもを新ふし出られ
云言物よ明を新し次とハ
て新らよあるをくるをり
を明を明を新を同新ふよ

あらを新をくをらの
宮ををへをを新をや新ふよ
あらををんを新る所宮るわを
新をを新式よをやうよ
をへ歳を只明果く明るくと
計のをくをけるをありやう
の新く明乃宮る新ふをの事
をうる所宮を新ふるれをれを
新ふよ対くを同るれを新
ふるわをるる所をるるを
をへを新ふを所ふをの所ふと
理ををく新ふ所よをるを
をを宮をへを新ふをの
るくをハ通理をうする
るくをを所るれを新をハ裏面の
れ遠るれを只あるやうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]乃字二句なれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃又字と弱く云ふ通ずる
ことなりしのゝおもく接合
海の面をゝすきて天ぢん川の
うゝをわたくいらゝ
あわ共空乃字とハいひくゝ
瀧よハゝあゝしゝ白を又句の間
よハ白ゝしセヲの事なれハ
新ふしをゝと乃事なれを
水色よハあゝ次ゝ
本橋と云ひくゝも非ゝ白
河間乃天海ゝハ新ふしよ
殺と水色しそれもセヲ乃
仙あゝ句ゝゝ新ふゝ
しゝそれくゝも水色ハのゝ
白ゝゝ次あゝ あすてん
写の字よ白ハ二句さゝと

新式よ行ゝ瀧ゝハひ京わ
殺めゝれゝ美別とゝゝ
あゝゝ あゝゝ風ゝ
海色二月乃白おゝひ風ゝを
ゝゝゝよハ二句ゝ
大白 ゝゝのおゝれ ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ地ゝよ
ゝゝゝゝゝゝゝゝハ落白を
の字ゝゝも 天乃字よゝ
ゝ瀧よハゝゝ 味ゝく
ゝうの白ゝよハ面ゝきゝ
ゝ次ゝもせゝゝ句ハ通
白ゝとひゝゝれゝ白
成丸ゝ定白ゝ事よゝ
されゝ其産乃字ゝ通次ゝよ
ゝ行ゝゝ又白ハ天乃字声

よ漢くも二句もし但天暑
天皇天皇ものの天よ付
ていくもの天人天乃
ものの事とひもの天
乃字よ句二句し
あくの稲もの雲りよ
名踏寄十六句 安踏ものの
名夏根元 年中の事名よ
くり

曙 涼よ一産二句あり曙雲
月 くく繋よひくも二句の
句し弱ふし弱所ふも所し
曙よものくくのものくの二
句稲し

釣月山 時ふ時ふ天象よきくく次
句稲よ所句し
芦 水色し稲し雜し芦穴
非稲 稲よ初る名稲ト前るもの
泡色ハ色し芦の稲 水色よ二
句し芦の稲 綿も稲るわ
芦田雁 水色もも稲よ
稲よ所し 句もも
芦鴨 名西し稲よ
ハくく次もも句稲よ
もくく稲 稲よ二句あり田雁
稲よもくく稲よ二句あり
あり田雁 芦鴨 名通大

事の秘伝あり連ようよりひろく世乃字一種より
三句あり雛よりいろと教よ
濃く今一句を入へし清新と
なく此句乃趣しみん家
乃世乃字をもて乃字なもも也
連より場に雛ふも世乃ふよ
面をを入事今一句あるへき
句世乃字と種類よりもろ
句ものもの世乃ふよりふ可
有

温日与 日乃あたゝ
可出三句しるし新式也
といとゝ
春小袖 二句也

春乃字の
世二句也
道乃大和
ふ志ゝ種
二句
乃ふ
山路
乃路
雛
二句
乃字
二句
道乃字
中道
奥
道家
時
世
世
世
乃字
乃字
乃字

清瀧よりは不忍池の方へ行る
ものもあれども清瀧のみを清瀧
と云名はあるまじきことなり云
何をこうあらためし
あらら清瀧清瀧山 國名名
まつて山新しきよりは非二
四

あらら海よ

あらら海よ　まつの字新式
乃今案に不
強ては乃字の強よ
強と書と荒の字
荒の字の荒の字
乃字の字の字の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳴石 鳴の名ある所は多し
赤乃字より面と無明の
字よりハ[illegible]くきこゆる所を
加ハ石乃字より生出るもいと乃
字と勝しこゆ[illegible]と申いへ
事ゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋の夜　短しセクの異名ち
朗詠乃詩よりきた夜
雲浪とあり[illegible]
乃ちちもセクの[illegible]
扇　なく紐深なち風流より[illegible]
[illegible]
よりに付合たちられも紐深
乃風なしに同きよりなく扇を
夜の事と指よりなく風流
[illegible]
[illegible]
[illegible]
夜乃物よりあり可申　無謂
[illegible]
人知[illegible]夜の[illegible]
[illegible]夜の物

[illegible]
物なく但句体なく新式よりあれた
句体を雲[illegible]
よりもなく[illegible]
[illegible]
[illegible]句中ふあ
[illegible]
又扇を一座より行句の物し
[illegible]
[illegible]扇一ハ物一も扇
乃美名ち扇[illegible]
と撰よりなく又一ハ[illegible]
[illegible]
美名なく扇二もあるよ
[illegible]
扇紐も二乃関し物利月
[illegible]
[illegible]乃扇[illegible]
[illegible]乃関乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪もまだ消えしのこりまさる
雪ゝゝ霜ゝゝ霜ゝゝ霜

とうくしく今一句わろく
芽の時種物と成し法橋
陽明門くく人よ超さすかたち
しの花を種物かたちはさるを面
芽の字はくくよりひくくわよ
一句わろく人し彩式よりきゝめ
るなよ上句はよいあしく次切る勇
よあ門ろなを字なるれを鄙
八重白の梅と寸
檀木　彩乃字を書き不論して
乃うしあれを二句論ときき
ちくふ良の字同おのしたの
ふよりは彩ろ句うい
あろ乃字おもも可論し逆
ふ次はわりよは不及長ろ
句字よも彩乃字より二句論
ニハ寸勇拙　同云檀より花乃字
きくくよ檀彩の字不長式
乃名乃所名云檀を花乃
よ時も一切の樹数をこう名し
ていい檀ハ笑くろあしたむう
句くのくを名るれを二句論
もむるわとろ人へ
海士小舟　海潮山　舟乃字より
小可論くく彩式ひるれを海士
小私ろう乃月を花間乃水
色よを論
東雅　彩杉めくまもるれハ
彩紙ろを

温 日のあたるなかは可為
表ちく形式り此のを
ふもとあるてらなかとらふ
くわを雑くとゝんと言ゝ
物よあるくっくゝ云ふ
なへくゝ表よ此といくらを
文理成海ゝし綿食人のこと
へ欲物ゝひ物をにあるこの
あ分ゝゝ河ゝを不断をゝ
を言ゝ宮ゝいくれを
形式よ日の暖なるゝ出るゝ
あくゝ結ゝ分もゝのもれを世とゝ
暖氣なゝを表ゝ宮ゝ物
ゝれをゝ氣ゝ風水世上野
山ゝのあくゝ

湯系脚 湯系脚ゝ足 足袋 ゆたか
ゝの温い雑ゝ
顕然ゝ連ゝ
さゝ物ゝへ脚ゝ形式乃古法
可用ゝ欲あくゝ
酒をあくゝ温ゝ
日ゝゝ二分ゝ形式ん
ゝ紙をきゝ
温日小 ゝ宗 源ゝ冷家ゝ
冷分ゝゝ此ゝ
青ゝ和紙ゝ氣の何く
くゝゝ紙をきゝ
ゆ今へ温日ゝ宗ゝを
きゝ毎ゝあくゝ暑源冷分
あゝゝゝ海ゝ何ゝ二句
ゝと連脚ゝ

新式の定を第八にそれを
とりひろめ数十年わをし
極られ重もわれらを計を
無用なる人に成事
給りさ給りしりくるの
分れし毒物も毒物
共を雇乃家函湯貯小湯法
せらる易へなるゆ也ばくを
分別と給りよを代の祝を
会程し新式の定乃ごく温
日よ出家ごとの二句始し
この暑寒源ふの湯とい
きごとぬう結しをよをきき
湯よ源をるこの新し寒
源温熱四季の義乃ゆ乃
御ゝ命乃事なりを混

雜しく極ごとんのごとく書ふく
云よ林ゆとを字も清不絶う
新式乃きごとの風ゝ間をを
をい海第し日乃温なる
と出家る所と間をなる
家を冷しよ別ゆしむ
ひやくうなる所も清間をて
出家るよ暑をきを源
なふかん新ちを者この物し
きを極ごとへをををう海さ
今れ法道理を弁新一番
云れ文よごとの一寸を所の
間ゝも源しなよ暑と分を
し間をの風うよおもをれ
と文よ間をきよあ源を
ごよ文を乃ごとあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃四とを五遍へあると又くくり
新式のんを四ハ雜なり物乃
四しんをくあ物乃まにたり
乃廉をくとを面と結ひのくの
物稲よりすしをましそれ
も廉と為るくあらハ物稲く
とを又まし物ぶん四とをけ
まと廉乃をくへまてし書
を物乃四しひふ去ハ物乃四
と云句より乃廉を結へくも
物稲よあらをけとを義種ふハ
あらをけくくり又をけ結く

あきつくい
乃月日　ゆ月日月日月日

日乃乃日とを四数の数もあり
とくく乃附日と書く新式
ひひを去ハ附乃字と去た
字をんく月よハあらを乃日
ゆ乃日とを数をちをを世ぶん
人数とをひく書を数ふり
月ふ不篇とを書をり新式
乃ふ去いをくを数を知る
とよ去ゆくを数れを知
あり数物ふを月日をなを
篇をくとおゆよあらひ附乃
字を書をまをひ膳ハ方葉集
よををひ乃ひをとを
白篇とを書をりをくを線の
字よんをを附乃字も同く
乃月日とを云ハ乃日れあり

もとひの月の弱くてとく
ひかりよりくく朝日のう
ひの景色くく花園よりおそくもく
月日の二巻くく巻くく
事くく月日も四くくられて
雖よい朝日日々月日月の字
ふもの字くくすもくくの句
ふし朝月日々月日清秋よ
なりくく面の月くくもくく
流くく新しいくくくく次
秋くく句くく

菖蒲 あやめ

花も菖の菖蒲の菖蒲の興も当
あ迄なりくく人中名のあやめ

あさま

浸るくく

あるくく五月雨

あまのつくくくく

天鼓 鼓 花 兵器 鼓

秋代よりくくくく同事なくく
あ迄よいあくく次郎紙くく
句くく紙の字よいよ句くく

天河 乃 あ 鄭 鄭ふくく意よ
あくく次意を
結ひくくも非ふ迄七夕くく
文河乃名前よ天乃川の
えい水過くく非鄭ふ句鄭を
くくくく可ふ字ふ分くく非河と

出雲天乃字乃きさらぎ
なるわ乃浦海と書よ浦句
あるゝ天乃字よハ不詳
とゝ字ゝ乃字ハ塩へ乃字わ名
乃河と浦乃字と書へし次
名乃海 名ゝ国乃名ゝも
きさらぎ海乃名の海
いゝも国名ゝ国の名ゝも名
和ゝも嫌よハ二句ゝ
栗津乃原 栗津の森栗津
乃里清水多ゝ
わゝ次 関云栗津と申ゝ
過次 名云句海ゝ也ゝ
ゝれゝ大津も過次名云
国名津乃字海よ付ゝ
数字ゝ乃ゝ美濃

乃名津集列乃名津
郡の名ゝ
よあゝ
さゝ

あふさか
逢坂 山影ゝ関も山よ
ゝ山影ゝ云ゝ
合逢ゝ云句
二句ゝ
よ熟 王乃字に
為ゝ
日数よ
云句 合逢の二字よハ三句
ゝへ

あこ
逢乃業 ゝ絶乃ゝきの業
ゝ
字に二句

秋乃海　歌の心に　秋のあつさ
をすゝぐと云句の体
海士の苫屋　火よ焼
あら波縄
をたくとゝもしく文字
おこるべし
海士　あまとは海に住ものゝ名
海人　海に住ものゝ名
新式よりは海士海人を
正字とし二句とも海の字
字なれども六源の字の
体段相違より海士

よりわよ義なれども
よ書きゝ字なれ字と蓑と
字村の字よ二句塩ふいりて
字角ゝ字れる蓑乃字正字
や和源よ正字と南産の義を
ゝつゝ字なれる新多一あ
多字れを一字よ字なる
別ゝん人ゝを結合忌ゝ
小弩八書抜乃さ海ゝけゝ
蚊蜻ゝ字ふ逸のゝもれを
猶ゝ書者の字と正字に
用ひを喩を萬葉よ金風
ゝを蚊風ゝゝ十六教
ゝ手ゝ鹿乃声ゝゝむ乃蚊
風と蚊乃字よ二句塩の源
と生新よ二句塩ゝん正字

七二十八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きてあらくあり　木のすゑ
よ二句をしびあるさひまのへをと
云句ハ字もいんもおるれかるる
をきくあるをくをもをくをしく
海士　人海こをあををたり
あまとりま　せうを
白眞乃雪舎　正月ちう
あさたち
朝霧の里　朝ちりれをあをし
みるまるわ
汗　ををあよ夜の朝よ寒せり
新武ちの　しいをちう　汗ハ夜
よりきをよ　病ちも又舩をう
きくもおり　ちよ粕ををちくも
あつぐをを　ををくも湯茶をく
ちをよ人見　ちよ粕なり

或説ニ汗ハ雜なり汗ハ
をををれをを　夜をとりを稀し
今四人をもも　ちもあをを後るわ
熱ハ病のあり　ををを暑のあを
をををを後をを　れを傷をを
を病をあを寒をうんしくを
おこうをのをり　さあをハををし
四人をを起を　温病をひ夜
も蚊も名ハをれ　をれをも丈熱
病者皆傷寒と　ハ同ハあれ
をををを　ををををを　霍乱を
夜をのけをを　ちも他乃をみハを
ありをれを　をれ中をを
乃ハをを　ちを暑氣の
を熱をを　をををを
ををを後　をを夜にを
をを後を　をを夜をを

[illegible]

[illegible]

[illegible]